

令和7年度 江戸川区立第六葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子○思いやりのある子○やりぬく子○元気な子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○児童一人一人、教職員一人一人が輝き、笑顔があふれる学校 ○主体的に考え活動し、他者と豊かにかかわる子供 ○自己研鑽に励み、互いに学び合い、高め合う教職員
前年度までの本校の現状	成果	・校内研究や授業観察の際には、主体的で協働的な学びを意識した授業作りを行ったため、教師の授業力が向上した。 ・校内での研修等を通じて、いじめ問題について理解を深めることができた。	課題	・習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。 ・「例年通り」を通例とするのではなく、地域、保護者、そして児童にとって何が最善かを考えながら、教育活動を見直していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。</li> <li>新聞記事を使った読解力向上教材（よむYOMUワークシート）を活用し、読解力向上を目指す。</li> <li>2、3、6年生を対象に東京ベーシックドリルテストを4月、9月、1月に実施し、4、5年生を対象に江戸川区学力定着度調査を4月、7月、1月に実施し、確実に算数の学力向上を図る。</li> <li>各学期1回の江戸川っ子study week!の実施を通して、家庭でのミライシードの活用を推奨する。</li> <li>外部委託による放課後学習教室（4～6年）を週1回実施する。</li> <li>年3回の校内授業観察他、校内研修や月1回程度の若手教員育成研修（フレッシュヤーズの会）を実施する。</li> <li>年8回の区小教研や各種研究会での学びを校内で交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童質問調査において「国語の学習内容はよく分かりますか」「算数の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答を83%以上にする。</li> <li>東京ベーシックドリル診断シート、江戸川区学力定着度調査の正答率（2～6年生）を60%にする。</li> <li>保護者アンケート「先生たちは、わかりやすい授業を目指し、授業を工夫している。」の肯定的評価を90%にする。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童質問調査において「国語の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答は、82.8%と概ね目標を達成することができたが、「算数の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答は76.3%と目標を下回った。</li> <li>2、3、6年生は、東京ベーシックドリルテストを4月と9月に実施した。4、5年生は、江戸川区学力定着度調査を4月、7月に実施し、今後定期的に調査を実施し、算数の学力向上を目指す。</li> <li>東京ベーシックドリル診断シートや江戸川区学力定着度調査の正答率は、数値目標に届かなかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数は初めて見ました。それぞれのレベルにあった授業でいいなと思いました。</li> <li>先生も大変な日々の中、ユーモアを交え楽しい授業時間を作ってくださっていることに感謝いたします。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリル診断シートおよび江戸川区学力定着度調査を実施し、算数科の定着状況を把握したが、正答率60%の目標には到達しなかった。今後は分析結果を授業改善に具体的に生かしていく。</li> <li>保護者アンケートにおける肯定的評価は91%であり、目標値90%を達成した。前年度88%から上昇しており、授業改善の取組が一定の評価につながった。</li> <li>校内研究や授業観察を通して授業改善に取り組み、指導方法の共有を図ることで、授業力の向上につながった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>すすんで楽しく学習し、考える力がつくよう指導・支援していただき有難いです。</li> <li>色々な見方をし、子供のやる気を引き出していたいただき、ありがとうございます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。</li> <li>朝自習では、ドリルパークに取り組み機会を確保し、実施状況を把握し指導に活かす。</li> <li>放課後補習教室（EDOスク）の教員と連携し、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>新聞記事を使った読解力向上教材を効果的に活用し、読解力向上を目指す。</li> </ul>
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>蔵書分類の割合の最適化を目指し、近隣の区立図書館やPTAの図書ボランティアと連携し、図書室の環境整備を継続して行う。</li> <li>保護者や外部機関との連携を図りながら、朝読書や読み聞かせ、読書科の授業などを通し、読書の楽しみや書誌による調べ学習のよさを見出せるよう指導する。</li> <li>読書科ノートを活用する。</li> <li>江戸川調べる学習コンクールに向けて、情報の分析や整理の仕方、自分の考えを表現する方法を指導する。</li> <li>区立図書館との読書科連携授業を各学年で年1回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>90%以上の学級で江戸川調べる学習コンクールに向けて、読書科ノートを活用した授業を行う。</li> <li>読み聞かせボランティアと協力し、すべての学級で読み聞かせを月に1回行う。</li> <li>図書整備ボランティアと協力して月に2回学校図書館を整備する。</li> <li>区立図書館職員によるブックトークを各学年年間1回以上実施する。</li> <li>10月の読書月間に教職員による本の紹介を行う。</li> <li>保護者アンケート「学校は、読書月間や読み聞かせなどの読書活動を行っている。」の肯定的評価を90%以上にする。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの学年も朝読書に継続的に取り組むことができた。</li> <li>読書科の授業については、年間を通して計画的・組織的に推進していく。</li> <li>読み聞かせボランティアと協力し、すべての学級で月1回の読み聞かせを実施した。</li> <li>図書館支援員や図書整備ボランティアと連携し、図書室の蔵書点検、環境整備、資料の整理・補修作業を行った。</li> <li>読書月間に向けて、教員によるお勧めの本や紹介文を図書室に展示し、全学年を対象に西葛西図書館職員によるブックトークを実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんな真剣に合いの手も入れながら聞いてくれて、かわいらしかったです。</li> <li>楽しそうに反応してくれました。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸川っ子読書科コンクールに向け、全学級で図書を活用した探究的な学習を実施した。児童は資料に触れる経験を積みつつある一方で、自ら問いを立て、必要な情報を収集・分析・整理し、自分の考えとして表現する力は十分とは言えない。今後も段階的な指導と継続的な実践が必要である</li> <li>読み聞かせボランティアによる月1回の読み聞かせを継続し、読書への関心を高める機会は設定できた。</li> <li>図書整備ボランティア「ろくっこぶっく」および区立図書館職員と連携し、図書室環境の整備を進めた。</li> <li>10月の読書月間では、教職員によるおすすめ本と紹介文の展示を行った。また、西葛西図書館職員によるブックトークを全学年で実施し、読書の幅を広げる契機とすることができた。</li> <li>保護者アンケートの肯定的評価は94%であり、目標値90%を達成した。読書月間や読み聞かせ、ブックトーク等の取組が定着し、読書活動の充実につながっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し子どもたちが本に触れる（読書）時間が増えてもよいと思います。</li> <li>読み聞かせを楽しんでくれたようで、子供たちの笑顔が見れてよかったです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区立図書館職員と図書整備ボランティア「ろくっこぶっく」が役割分担と情報共有を行い、より円滑に図書室環境の整備を進められるよう、連絡体制や打合せの機会を整える。</li> <li>読書月間の「先生のおすすめ本紹介」については、展示開始時にTeamsや放送等を活用して児童へ周知し、手取りやすい導線づくりを行う。</li> <li>朝読書や読書科の時間に、児童同士がおすすめの本を紹介し合う時間を設け、読書経験の共有と言語化の機会を増やす。</li> </ul>

体力の向上	○運動意欲・健康・体力の向上に向けた取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業改善</li> <li>・体力テストの実施と体力テストに向けた体力向上の取り組み</li> <li>・年3回のなわとびチャレンジウィークの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月実施の体カテストにおいて、平均値を都平均と同水準にする。</li> <li>・100%の児童がなわとびの練習に参加する。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体カテストの都平均を上回ったのは、1年生男子と5年生女子のみであった。今後は、日常的な運動習慣の定着を通して、全体の体力向上を図っていく。</li> <li>・1学期には、なわとびウィークを実施した。10月はたてわり班活動と合わせて、他学年と交流しながら長縄に取り組んだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体カテストに向け練習中で、先生の説明が分かりやすく、見えていて楽しかったです。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体カテストでは、全体として都平均と同水準にする目標には到達しなかった。今後は日常的な運動習慣の定着を図り、体力の向上を目指していく。</li> <li>・持久走記録会やなわとびウィークを実施し、ほぼ全ての児童が主体的に練習に取り組んだ。</li> <li>・外部講師を招いた授業や校内研究を通して、探究的な学びを意識した体育の授業改善に取り組んだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが元気に体育をしている姿を見ることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体カテストの分析結果を踏まえ、個々の児童が自己の課題を把握し、目標をもって取り組める仕組みを整える。記録の見える化や振り返りの機会を充実させ、主体的に体力向上に取り組む態度の育成を図る。</li> </ul>
共生社会の教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導、各教室のレイアウト等の実施・充実</li> <li>・エンカレッジルームの活用促進</li> <li>・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画やその評価について、保護者と共有し、支援の改善を図る。</li> <li>・特別支援教育委員会を年に9回実施する。</li> <li>・特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカーとの連携を図る。</li> <li>・特別支援教育校内研修を年1回実施し、支援について共通理解を図る。</li> <li>・副籍交流を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮、支援を要する児童の把握を100%にする。</li> <li>・特別支援教育委員会の年9回実施を達成する。なお、必要があれば臨時校内委員会を実施する。</li> <li>・特別支援教育校内研修の年1回実施を達成する。</li> <li>・手紙による学籍交流2名、直接交流1名を行う。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月行われる特別支援委員会が順調に行われ、クラスで配慮を要する児童の把握が進み、必要な支援を検討し、それぞれの機関につなぎ始めている。</li> <li>・特別支援教育校内研修では、参加対象者から講演内容を募り、それに沿って実施した。日常の指導に活かせる内容のため、すぐに実践したいという意見が多かった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラー等、子どもとの相談できるのがいいと思います。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育委員会を計画に沿って開催し、支援を必要としている児童について協議を行い、支援方針の共有を図った。</li> <li>・特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、スクールソーシャルワーカー等と定期的に情報交換を行い、支援を要する児童の把握に努めた。</li> <li>・校内研修を実施し、教職員の共通理解を図った。</li> <li>・副籍交流についても計画に基づき実施した。</li> <li>・支援体制は整備されており、支援内容の共有方法や記録の活用をより一層充実させていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談で担任先生からことばの教室を勧められて、子供の将来を考えてくださって、感謝致します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教室や通級による指導を利用して児童の学校生活支援シートの活用について、効率かつ実用的に行えるよう検討する。</li> <li>・校内の支援を要する児童の把握と共通理解を図るために、担任と特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、スクールソーシャルワーカー等の情報交換を密にする</li> </ul>
不登校・いじめ対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策の実施・充実</li> <li>・教育相談の強化</li> <li>・L-Gateの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日生活指導夕会を行い、児童の情報や対応、生活指導連絡協議会の報告などを共有する。</li> <li>・年3回の児童アンケートを実施し、活用する。</li> <li>・いじめ対策委員会を年3回以上実施し、組織的に対応する。</li> <li>・いじめや不登校に関する情報ファイルを作成し、日常的な情報の共有を行う。</li> <li>・L-Gate毎日の記録の実施により児童の心の状態を把握し、学級経営の充実などに活用する。</li> <li>・日常的に、SSWや児童相談所など、他機関との連携を図る。</li> <li>・学年だけでなく、学校全体で生活指導上の問題点について対応していけるよう校内体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に一度、生活指導についての校内連絡会を実施する。また年に2回の生活指導全体会を通して児童の共通理解を図る。</li> <li>・年3回のいじめ防止のアンケートを実施し、いじめ発見の機会をつくり、いじめ防止に努める。</li> <li>・不登校児童は関係諸機関とつながりのない児童数を0にする。</li> <li>・いじめに関する調査において未解決（解決後3か月経過前）の事案を10%以下にする。</li> <li>・保護者アンケート「学校は、子供たちの生活の様子を見守りながら、いじめや不登校などが無い学校にするために取り組んでいる。」の肯定的評価を80%以上にする。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に一度の生活指導夕会を通して、児童の実態把握をしてきた。諸事情による不登校、友達とのトラブル、他校トラブルなどの報告があるが、教員が一人で悩まず、共有しながら、解決に向けて対応してきた。</li> <li>・いじめ防止アンケートの実施前に、道徳などの授業を通していじめ防止につながる指導をした。教職員、児童が「いじめはいけない」という意識をもつことができた。</li> <li>・いじめ案件については以前発生したのも3ヶ月経過し、終結に向かった。現在、継続している案件はない。</li> <li>・いじめ案件については以前発生したのも3ヶ月経過し、終結に向かった。現在、継続している案件はない。</li> <li>・今後も、教職員全員で児童を見守っていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが楽しそうに学んでいる様子が見られて、安心しました。先生方のご指導に感謝いたします。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回の生活指導夕会を実施し、各学年からの報告をもとに実態把握と対策の検討を行うなど、組織的な対応を図った。教員間で情報を共有し、担任が一人で抱え込まない体制を整えた。</li> <li>・年3回のいじめ防止アンケートを実施し、未解決案件は発生していない。</li> <li>・不登校児童については関係機関と連携し、未接続の児童は0人であった。</li> <li>・エンカレッジルームの運用を開始し、不登校児童の学校での居場所を確保した。</li> <li>・スクールカウンセラー2名体制により相談体制を充実させ、保護者と連携した支援を行った。</li> <li>・保護者アンケートの肯定的評価は92%であり、前年度77%から大きく上昇した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を休みがちな娘に、色々な選択肢を与えてくださり、温かく受け入れてくれる先生方に感謝しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンカレッジルームへの入室の仕方や運営についての方向性が固まったので、次年度は今年度以上に保護者へ周知し、必要に応じて入室できるようにしていく。</li> <li>・今年度以上に教員がアンテナを高くして児童の変化に気付きながら指導に努めるよう共通認識をもつ。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校(園)の地域社会に開かれた実現</p>	<p>・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実</p>	<p>・HPやteturuを活用しながら、学校だより、その他学校からのお知らせを配信する。 ・学校日記のページに学校の様子や給食の献立を毎日載せる。 ・学校説明会のお知らせを載せる。 ・学校行事の変更や学年行事などについては、決定次第、情報発信できるように努める。</p>	<p>・保護者アンケート「学校だよりやホームページなどで情報を発信している。」の肯定的評価を95%以上にする。</p>	B	B	B	<p>・連絡内容が多く、連絡内容が重複してしまうことがある。情報量が増えすぎず、必要な情報を保護者や地域に伝えていけるよう努めていく。</p>	B	<p>・テトルでの迅速な配信やペーパーレス化がとても便利でありがたいです。</p>	A	<p>・学校からのお便りや受付業務のペーパーレス化を進めるとともに、HPやteturuを活用した情報発信を継続した。 ・保護者アンケートの肯定的評価は97%であり、目標値95%を達成した。前年度96%から上昇しており、開かれた学校づくりに向けた取組が定着している。 ・今後も情報の精選を図りながら、分かりやすい発信に努める。</p>	A	<p>・毎日大変かと思いますが、ホームページで学校の様子を知ることができて有り難いです。</p>	<p>・保護者への伝達情報がスムーズに伝わるよう情報の精選を行う。 ・保護者へのアンケートを活用しながら、教育活動の理解をいただけるよう情報発信をすすめていく。</p>
	<p>・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施</p>	<p>・保護者や地域、学校評議員などからの日常の連絡や個人面談、運動会・学校公開・学芸的行事などの行事からアンケートを行う。 ・アンケートの結果をもとに地域、保護者、そして児童にとって何が最善かを考えながら、教育活動を見直していく。</p>	<p>・保護者アンケートで各項目の肯定的評価を80%以上にする。</p>	B	B	B	<p>・行事ごとの保護者アンケートを、管理職を含め職員で確認し、学校だよりの特別号としていただいた意見への改善策や、教育的意義の共通認識を持っていただけるよう、返信を出していくことにした。</p>	B	<p>・いつも行事の度にこのように感想を書いています。それに対して学校側のアクションがあまりない気がして…何だか一方通行な印象を受けます。</p>	A	<p>・行事ごとに保護者アンケートを実施し、その結果を学校だより等で共有した。 ・今年度新設した質問項目において、肯定的評価は91%であり、目標値80%を達成した。 ・アンケート結果を教育活動の改善に生かし、学校と保護者の共通理解を図る取組を進めた。</p>	A	<p>・学校だより特別号の配信があることで、学校がアンケートを読んでもらっていることがわかって良かったです。</p>	<p>・学校と保護者が、行事についての教育的意義について共通認識がもてるよう継続してアンケート結果に対する学校だよりの配信を続けていく。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育の特色ある展開</p>	<p>・PTA活動や地域との連携を通じた心豊かな児童の育成</p>	<p>・ろくっこキャンプ、ろくっこまつりなど、PTAと協力して開催する。 ・ネパール姉妹校協力委員会を定期的に開催し、姉妹校であるジャナジョティ小学校との交流を実施する。 ・たてわり班活動での異学年交流を通じて、思いやりのある児童の育成を図る。 ・保護者による読み聞かせや、地域図書館と連携した読書活動を取り入れる。</p>	<p>・PTA行事で年2回以上の教員参加を目指す。 ・ネパール姉妹校協力委員会を学期に一度開催する。 ・たてわり班遊びや、仲よし給食などの学年交流を年間で10回以上設定する。 ・年度初めに読み聞かせの計画をする。西葛西図書館と連携して、読書月間にブックトークの実施を行い、読書に親しむ児童の育成を図る。</p>	B	B	B	<p>・ネパール集会には、姉妹校交流にてご助力いただいている現地出身の方にご参会いただいた。区の特色ある活動である読書活動にも西葛西図書館の方や、保護者にも協力をいただきながら、児童の心を豊かにしていく教育活動を取り入れている。</p>	A	<p>・ジャナジョティ小学校との交流は、子供たちの国際理解に役立っている。 ・キャンプの時期を変更してみんなが安全に参加できるようにしてよい。</p>	A	<p>・保護者アンケートの肯定的評価は96%であり、前年度94%から上昇した。様々な活動を通じて児童が豊かな国際感覚や、地域とのつながりを感じていくことができるようPTAや地域との協力体制を整えていく。 ・たてわり班活動での異学年交流を通じて、他者への思いやりの心をもてる児童の育成を継続していく。</p>	A	<p>・たてわり班は子供達の心の成長、他者への思いやりが育まれる機会だと思っております。</p>	<p>・たてわり班活動や、ジャナジョティ小学校姉妹校交流を継続し、児童の豊かな心の育成をしていく。</p>
	<p>・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施</p>	<p>・SSSを効果的に活用する。 ・月1回定時退勤日を設定し、保護者に周知する。 ・文書のペーパーレス化を推進する。 ・会議で話し合う内容の精選をする。 ・自動応答メッセージによる電話対応を実施する。</p>	<p>・毎月の勤務時間において、外在時間4.5時間以上の教員を3名以内にする。 ・会議の資料をクラウド上に保存する。 ・会議にかかる時間を平均40分以内にする。 ・年間を通して同じ時刻に自動応答メッセージが流れるよう設定し、その時間を保護者に周知する。</p>	<p>・会議時間の削減に努めながら働き方改革を進めてきた。教職員の質の高い授業を継続していけるよう教材研究に充てる時間を捻出していく。</p>	B	B	A	<p>・先生たちの働き方改革が進むことで、子供たちへの丁寧で安心感のある指導が充実している。</p>	A	<p>・会議資料のクラウド保存や自動応答メッセージの設定など、業務効率化に向けた取組は目標を達成した。 ・会議時間の短縮に努めたが、議題や検討事項が多い状況が続いている。 ・時間外在校時間45時間以上の教員を3名以内にするという目標は達成できなかった。 ・教員が教材研究の時間を十分確保できるよう、会議内容のさらなる精選と運営方法の改善を図っていく。</p>	B	<p>・教員の負担を減らすことを最優先にしてください。学校の取り組みが多すぎるのが原因です。</p>	<p>・行事の精選を行ってきた。やらなければならない取り組みと、そうではない取り組みを精選しながら教員の働き方改革を進めていく。</p>	